

【農作業時のトラクター等に関連した事故による救急統計について】

郡山地方広域消防組合管内では過去10年間（2014年から2023年まで）に、トラクターや耕運機、コンバインの横転や巻き込まれ事故により109人が救急搬送されており、そのうちの6割以上（62.4%）の68人が入院が必要な症状もしくは死亡に至っています。

これから稲刈りをはじめとした農作物の収穫時季を迎えるにあたり、これら重症化率の極めて高い事故の予防を図るため、以下のとおり救急統計をまとめましたのでお知らせします。

※ 田畑での農作業のほか、林業や園芸等を含む

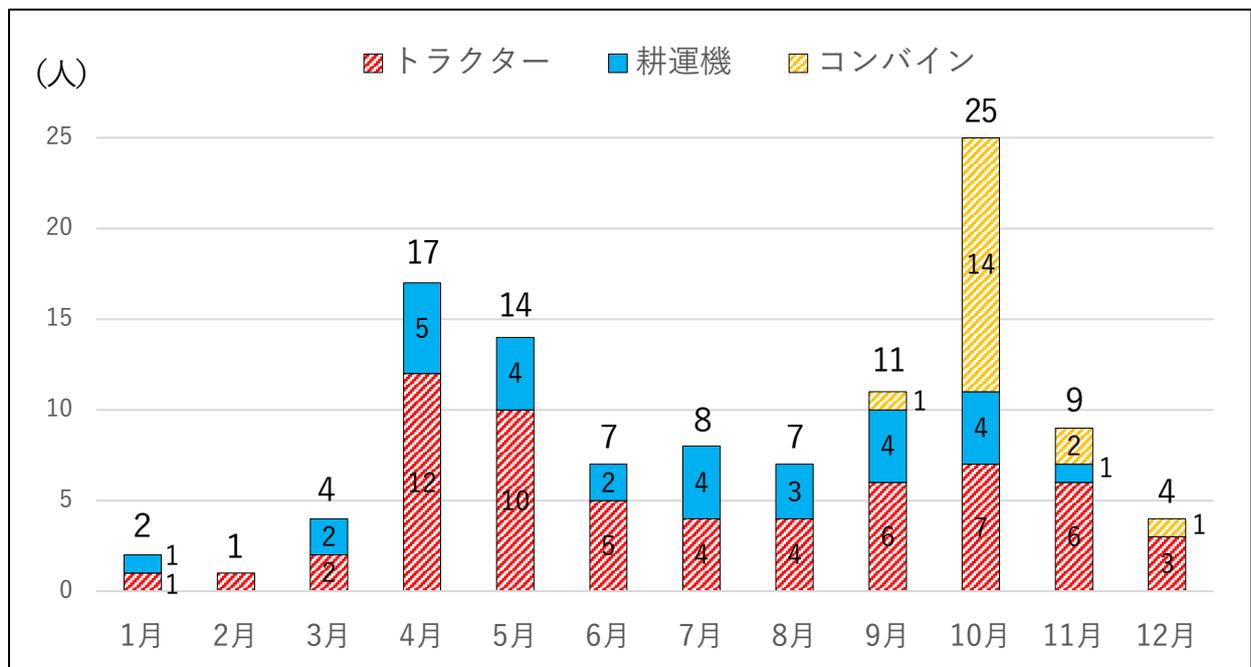
※ 小数点を含むものは、小数第二位を四捨五入した数値

※ 受傷起点が「トラクター」「耕運機」「コンバイン」による横転事故、巻き込まれ事故等を集計

■ 発生月別の救急搬送人員

発生月別の救急搬送人員をみると、10月が最も多く25人（22.9%）、次いで4月が17人（15.6%）、5月が14人（12.8%）と続きます。

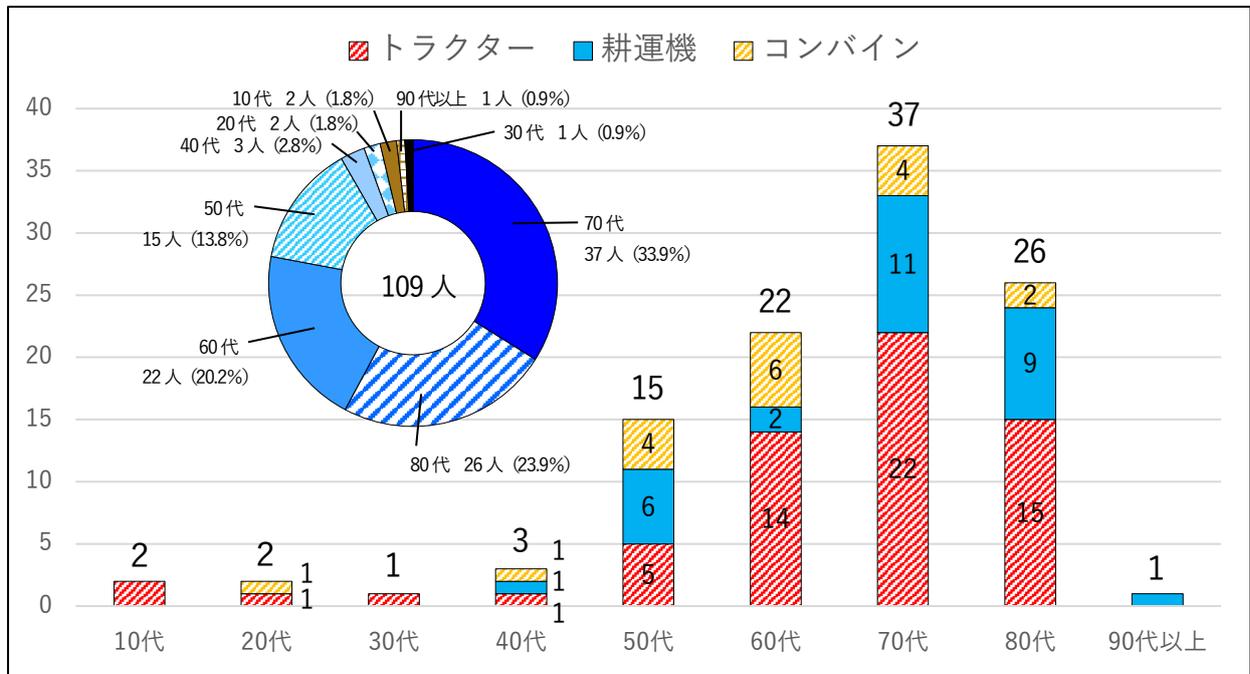
田植えと稲刈りシーズンに集中しており、特にこれからの時季に事故が多いことが分かります。



■ 年代別の救急搬送人員

年代別の救急搬送人員をみると、70代が最も多く37人（33.9%）、次いで80代が26人（23.9%）、60代が22人（20.2%）と続きます。

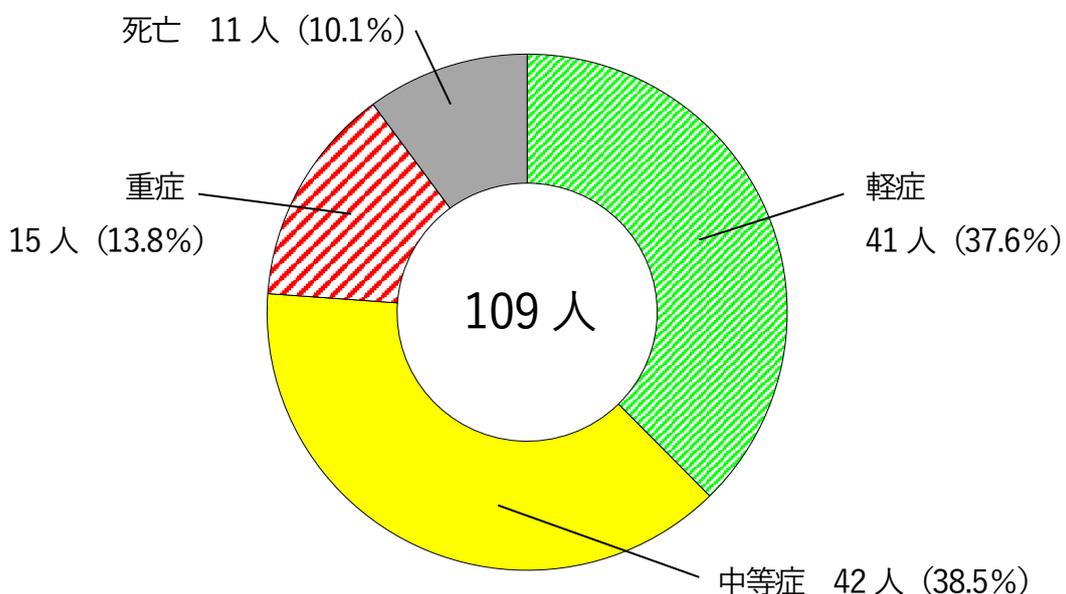
50代から80代で100人（91.7%）と全体の9割以上を占めていることがわかります。



■ 傷病程度別の搬送人員

傷病程度別の搬送人員をみると、中等症が最も多く42人（38.5%）、軽症が41人（37.6%）、重症が15人（13.8%）、死亡が11人（10.1%）と続きます。

全体の62.4%を占める68人が入院が必要な症状もしくは死亡に至っており、重症化率が極めて高いことがわかります ※ 2023年における全救急における傷病程度は、軽症が54.8%、中等症が34.8%、重症が8.1%、死亡が2.2%



■ 事例

- ・コンバインを運転しバックしていたところ、土手から田んぼに横転し受傷した。(60代男性 重症)
- ・トラクターを運転中、道路脇約2m下の畑に入ろうとしたところ横転しトラクターの車輪に大腿部が挟まれ受傷した。(70代男性 重症)
- ・田んぼで農作業中、バックしてきたトラクターに気づかず下敷きとなり受傷した。(70代女性 重症)
- ・公道を走行中のトラクターに普通自動車衝突し、トラクター運転手が受傷した。(70代男性 死亡)
- ・小型耕運機を使用中、バランスを崩しロータリー部分に、右下腿部が巻き込まれ受傷した(50代男性 中等症)